

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000310
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団
事業所名	グループホーム シオンの園川上
所在地	佐賀県佐賀市大和町大字川上 587-1 (電話) 0952-64-8833

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20 年 11 月 21 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 3 日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	3 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27.000~30.000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中西医院 栗林歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀市大和町川上峡の近く、広い庭園付の民家の跡に平成17年に新築された自然環境に恵まれたホームである。隣には棟続きで小規模多機能型の施設が今年度新設され、お互いの交流が行われている。今年4月にグループホームのISO(国際標準化機構の認証)を取得され、福祉サービスの提供について熱心に取り組まれている。室内は、天井が高くのびのびとした空間を作り出しており、明るい日差しが射し込む中で、入居者の方がゆったりとした生活を送られているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとして、地域の方々とのつながりや家族とのつながりを大切にし「最後までその方らしく」という理念を作り上げ、その理念を職員全員で共有し実践している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うことで、自分たちの業務を見直す機会とし、業務の改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、行事や入居者の暮らしづくり等を伝える意見交換の場としている。会議を開催したことで、地域の方による夜間想定避難訓練への協力等得られるようになった。またその会議結果を全職員が共有しサービスの向上に活かしている。面会に来た家族にも見ってもらえるよう、議事録を玄関に配置し、いつでも閲覧できるように配慮している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族アンケートを年2回行い、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。またオンブズマン委員会や公的機関の苦情窓口を設置し外部へも表せるようにしている。「みなさまの声」(苦情箱)を玄関に設置し、苦情などは会議等で検討を行い、改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩のときに缶拾いやごみ拾いを行い地区の美化活動に努め、花火大会や子供みこしなど地域の行事の時には、ホームを解放して地区の方々との交流を行っている。また地区の民生委員を通して、災害対策への協力依頼など連携を取り合っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、地域の方々とのつながりや家族とのつながりを大切に「最後までその方らしく」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月1回行われる会議において「最後までその方らしく」という理念の実践について検討をおこない、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に缶拾いやごみ拾いを行い、花火大会や子供みこしなど地域の行事の時には、地区の方々との交流に勤めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、自分たちの業務を見直す機会とし、業務の改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、意見交換の場としている。会議を開催したことで、地域の方による夜間想定避難訓練への協力等得られるようになった。またその会議結果を全職員が共有しサービスの向上に活かしている。面会に来た家族にも見てもらえるよう、議事録を玄関に配置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体施設が行政との交流をしており、その情報は共有されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来た家族には、玄関に行事などの写真を飾り、日ごろの様子などを見てもらっている。また、職員を担当制にして家族への連絡や相談、健康状態などを随時報告している。金銭管理についても、明細書と領収証を提示し、家族に署名捺印をもらっている。	○	入居者の方の日々の暮らしぶりや行事などを知らせる、定期的な家族への報告についても期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを年2回行い家族の意見や要望を聞く機会を設けている。また、オンブズマン委員会や公的機関の苦情窓口を設置し、外部へも表せるようにしている。「みなさまの声」(苦情箱)を玄関に設置し、苦情などは会議で検討を行い、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動に関しては、十分に検討し、馴染みの関係が気づかれている。職員の異動はなるべく最小限にとどめるようにしている。代わる場合においても、経験のある職員を配置し、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT(工作中・仕事遂行を通して訓練をすること)表に基づき基本的知識、技術の指導を行っている。年間教育訓練計画にて職員の研修の機会を設け知識、技術の向上に努めている。また研修結果は、職員全員に回覧され、情報の共有が行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム関係の研修参加を勧め、研修会にて同業者との交流の機会を持ち、他施設の状況や情報を収集している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にグループホーム利用前には、施設を見学してもらっている。他の入居者とも自然に会話ができるように、職員が配慮を行い、場の雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方ができるところは、なるべくしてもらいように支援し、残存機能を十分に活用してもらいようにしている。会話の中から生活の知恵や漬物のつけ方などを教えてもらい、食事の際に食卓に出したり、庭掃除や裏の畑を利用しての野菜栽培などを楽しんでもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話や、本人の表情、様子などから本人の意向を確認するようにしている。またその情報を職員間で共有しカンファレンスや会議の時に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月に1回サービス担当者会議を行い、介護計画の見直しを行っている。本人だけでなく、家族の意見も取り入れ希望をプランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行い、特別な変化が見られたときには、その都度カンファレンスを開き、家族とも連絡を取りながら、本人に適したサービスを提供できるように計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型と合同で運動会を開催したり、踊りの会を開催したりしている。入居者の希望にあわせて、外出支援や通院、自宅への外泊など柔軟な対応が出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する係りつけ医に受診してもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針に入居者全員が同意をしており、看取り時は本人の変化に合わせてカンファレンスを開き、家族本人の望まれる最後を迎えてもらうように、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に個人の尊厳を重視した対応を行っており、記録等の個人情報は、鍵のかかるロッカーに保管している。また、職員はプライバシーの保護に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就床の時間は決まっておらず、野菜を作ったり、編み物をしたり、外出時は化粧をしてメリハリをつけたりと、本人の状態や希望に沿って支援を行っている。家族から聞き取ったアセスメントを元に、入居者が1日気持ちよく過ごしていただけるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、入居者、職員全員で楽しみ、本人の能力や様子に合わせて、茶碗拭き等後片付けを行ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴にしているが、外での作業を楽しまれた方は毎日入浴してもらったりと、本人の希望や体調に合わせて柔軟な入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみごとを家族から聞き取り、編み物やタオルたたみなど、本人の能力や楽しみを活かした支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気を見ながら、ドライブや買い物に外出し、外で弁当を食べたりして気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践し、開放的な空間を提供している。夜間は安全のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機、消火器を設置。消防計画に沿って年2回の避難計画を実施している。7月に夜間想定避難訓練を行い、消防署から避難経路や方法などのアドバイスを受ける。また運営推進会議で議題として提案をおこない、災害時には地区の方の協力が得られるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の健康管理表を作成し、血圧や、食事、水分補給等について毎日チェックしており、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、天井が高く、明るく日当たりがよい。床の素材に配慮され、倒れても衝撃を和らげるクッション性のある床となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人の使い慣れたものを持ってきてもらうように説明し、小物などは使い慣れたものを持参されている。		